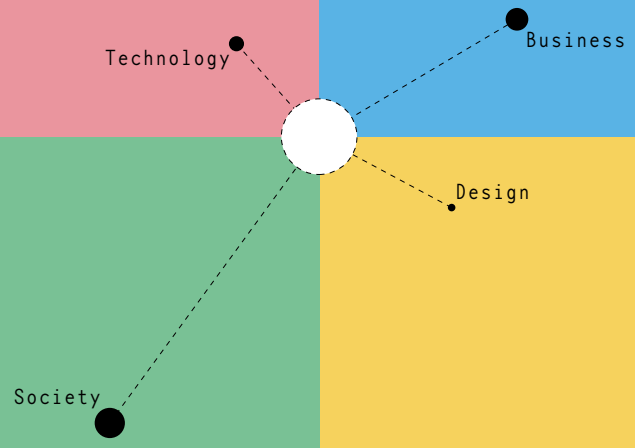
後藤滋樹

ごとう・しげき：早稲田大学 理工学部 情報学科教授。MINC理事、APAN副議長などアジア太平洋のインターネット界で活躍している。
goto@goto.info.waseda.ac.jp



インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

日本人は二度死ぬ

お礼を二度言う

外国人でも日本語の達人がいる。そういう人は日本文化に造詣が深い。私もアメリカ人の知人に水戸納豆の違いを教えてもらったことがある。そんな彼らでも日本社会の常識を完全に身に付けることは難しい。一例を挙げると日本人はお礼を二度言わなくてはならない。

たとえば私がAさんからプレゼントをもらったとする。その場ですぐに私はお礼を言う。これはどこの国でも同じだ。その日は別れて、しばらく経ってからAさんに再度会ったとしよう。すると、私はAさんに「この前は結構なお品を頂戴しまして……」と二度目のお礼を言う。

このように2回のお礼を言わないと、私は恩を忘れた無礼な奴と思われてしまう。日本社会で生きていくのは大変だ。記憶力を研ぎ澄ませてプレゼントを忘れないようにしないとイケナイ。

会費の請求も二度

お礼を二度言うのが日本社会に固有の習慣であるということは、なかなか私も理解できなかった。ここで役立ったのは、本誌の読者の小川和彦さんから寄せられた情報で、韓国ではお礼を二度言う習慣がないと言う（新・社会楽（14）「日本人の完璧主義」1996年3月号）。

似たような例はほかにもある。これは英会話の上達法の本に書いてあった挿話だ。アメリカにホームステイした日本人学生が空腹で帰宅した。その家の夫人にステーキをすすめられたが、遠慮して最初は断った。日本の家庭ならば「遠慮せずに召し上がれ」と再度すすめてくれるはずである。しかしアメリカの夫人は最初の断りの返事を聞くと、即座にステーキをゴミ箱に捨ててしまった。

私自身の経験もある。あるアメリカの学会の役員をしていたときの話である。学会の本部から連絡があった。「日本の法人会員の会費が未払いになっている。日本の国内で督促の連絡をしてくれないか」という要請だ。私は、わざわざ督促をしなくても、会費の振込案内を単純に再度送ればよいと答えた。それが日本の学会では普通のやり方である。未払いの会員には二度目を送る。

学会の役員を選ぶような場合に、それが名誉ある地位であれば、候補の人は最初は遠慮して就任を断る。一度目には断られても二度お願いするのが日本式である。冷静に考えると、これは面倒くさい手順だ。

日本社会は特別か

日本人は特別なのだろうか、日本社会は世界に比類のない特徴を持っているのだろうか。私はオランダ人の日本通の友人にすすめられてカレル・ヴァン・ウォルフレン教授の『日本／権力構造の謎』を読んだことがある。この本はやや悲観的なトーンで書かれていて、その調子はウォルフレン教授の後の著書の題名『人間を幸福にしない日本というシステム』に表れている。

もう少し学術的な日本社会論が、スタンフォード大学青木昌彦教授の近著『比較制度分析に向けて』にある。青木先生によると、日本は官僚制多元主義国家だと言う。これはアメリカとは違うし、ヨーロッパの各国とも異なる。ウォルフレン教授の指摘している事実と青木先生のモデルとは、かなり一致している。

青木先生の指摘する日本の特徴は国家のモデルだけではない。経済におけるメインバンクというシステムが日本の特徴である。つまり各企業にはメインバンクとなる銀行がそれぞれ決まっている。

シリコンバレーは特殊か

現在の日本社会は将来像を描けずに迷っている。手掛かりの1つとしてシリコンバレーを見習うことを提案する人がいる。しかし青木先生の著書を読むと、シリコンバレーのモデルを日本に直輸入しても、うまく働きそうもない。ベンチャーキャピタルと日本式のメインバンクでは、相当に異なる。

ただし、青木先生の次の指摘は役に立つ。シリコンバレーを支えている理由の1つは、製品がモジュール化されていること。すなわち新規参入する企業は巨大な製品を全部製造しなくてもよい。標準化されたモジュール単位で競争できる。いかにもシリコンバレーは動きの速い小企業向きに思える。

これまでの日本企業は独特のモデルを持ちながらも、国際的な力を発揮してきた。私は従来の日本の頑張りに感心する。ここでモデルを切り替えないと日本はダメだと言うが、逆に言えば今こそモデルを変えればよいのだ。

[参考]●カレル・ヴァン・ウォルフレン『日本／権力構造の謎』（上）（下）ハヤカワ文庫NF 1994.●カレル・ヴァン・ウォルフレン『人間を幸福にしない日本というシステム』新潮OH!文庫008, 2000.●青木昌彦『比較制度分析に向けて』NTT出版 2001.

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

［インターネットマガジン　バックナンバーアーカイブ］ ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D（株式会社インプレスから分割）が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン　バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

http://i.impressRD.jp/bn

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容（技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど）は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者（執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など）が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元（株式会社インプレスR&D）、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D（当時は株式会社インプレス）と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先
株式会社インプレスR&D
All-in-One INTERNET magazine 編集部
im-info@impress.co.jp

Copyright © 1994-2007 Impress R&D, an Impress Group company. All rights reserved.